

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2590300162		
法人名	社会福祉法人 近江幸楽会		
事業所名	グループホーム 花みずき		
所在地	滋賀県長浜市下城中町200番地1		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町村受理日	平成27年12月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432番地 平和堂和邇店2階		
訪問調査日	平成27年12月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・重度化している中でも安心して過ごして頂けるように、個々への関わりを大切にして穏やかに生活できる「もう一つの家」でありたいと思います。 ・ご本人の笑顔がたくさん引き出せるように、またこれまでの生活と環境をそのままに暮らしていけるような時間と空間を作っていきたいと思います。 ・ご家族様が気楽に立ち寄れる「もう一つの家」でありたいと思います。」 ・敷地内の畑で野菜を育て、収穫した新鮮な野菜が食卓に上がることもあります。 ・敷地内の庭園では四季折々の花や果物があり、また伊吹山もながめられ季節の移り変わりを感じて頂いています。天気の良い日には外に散歩に出かけ、肌で感じて頂いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者の平均要介護度が4.4と高い事業所で食事介助率も高く、胃ろうで栄養摂取する利用者も居る。そのような中で、住み慣れた、我が家のような安心感に包まれて過ごせるように事業所が「もう一つの家」となる目標を掲げて日々の支援を行っている。職員は言葉に出せない利用者の表情や、声のトーンの変化を見逃すことなくわずかな反応の中に笑顔を見られることを喜びとしながら介護に努めている。併設している4事業所間での職員の交流も有り、臨時の応援も得られ、質の高いきめ細やかなサービスの提供に取り組んでいる。家族の訪問は頻繁で孫の来訪を心待ちにしている利用者も居る。事業所全体が住み慣れた我が家のような安心感と落ち着いた温かい雰囲気にも包まれていて利用者は夫々の思いと体調に合わせた日々を過ごしている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	朝礼時に毎日、唱和している。 人と人とのつながりを大切に、穏やかに過ごして頂きたくさんの笑顔が見られるように支援している。	「人と人との和、地域の輪を大切にあなたの我をいきいき」という法人の理念に加え事業所独自の目標を事業所入口に掲示し、職員は毎日唱和し実践に繋げ、利用者が日々笑顔で過ごせるように介護している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入町し、清掃や防災訓練等の年間行事に参加している。近隣町のお祭りに出店し参加している。セブンイレブンの移動販売の場としている。また当法人の祭りには多くの方にも来て頂いている。	自治会に加入し、職員は地域の環境整備や防災訓練にも積極的に参加している。今年で6回目になる事業所の「幸楽会まつり」にはボランティアなど約500名の参加者があり、地域との交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	日々の交流や行事に参加して頂くことで、ご利用者様と一緒に過ごして頂き認知症という病気について理解して頂くように働きかけている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	併設事業所と合同で2か月に1回、定期的開催している。近隣調の自治会長や民生委員、市職員、利用者家族、駐在所の警察官、消防職員の方々に出席をお願いしている。地域や家族の思いやお願いなども含め話し合いをしている。	自治会長、家族、行政職員、民生委員、事業所職員に加え、警察や消防署職員の出席もあり適切な情報や助言を得て運営に活かしている。外部評価も議題に挙げ議事録は職員に回覧し共有している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所相談に応じたり、空所情報を提供している。日頃より相談、助言を受けている。	市高齢福祉課とは法制度の運用や事業所運営の相談などで日頃から連携をとり、協力関係の構築に努めている。中学生の職場見学も積極的に受入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関や入口の施錠はしていない。入口にセンサーを設置し、外へ行かれることに気付くようにしている。外に行かれた時は一緒に出掛け、共に過ごす時間を持ち対応している。	夜間9時以降以外は施錠せず、職員の見守りに徹している。身体拘束ゼロセミナーに参加し研修結果は内部に伝達し職員は全員がその意味を理解し支援に努めている。事故防止のため家族の同意を得て夜間ベッドサイドにセンサーを設置することもある。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修において高齢者虐待防止関連法について学び、事業所内の意識を高め、虐待行為、言動が見過ごされることが無いように注意を払い防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修に参加し、成年後見制度について学び、今後そのようなことが考えられる場合は関係者と話し合い、対応していこうと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に事業の概要、ケアの方針、リスク管理、あるいは家族の支援協同について説明をし、理解を求めている。随時不明な点については応じている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置している。また、ご家族様面会時にお話しする時間を持ち直接ご意見、ご要望等を頂いている。	家族の面会は多く職員とも顔なじみになり日頃の様子など、また要望なども気軽に言える雰囲気づくりに努めている。家族の要望を受け利用者の誕生日にプロのカメラマンによる本人の記念写真を撮った例もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回の会議を開催し、利用者のケアや事業所内の問題点、報告事項等話し合っている。疑問・質問等にも都度解決できるように常に施設長と協議する時間も持っている。また、個々に面談する機会も設けている。	毎月の職員会議で意見等を出し合い検討している。職員全員が9つの専門委員会のどこかに所属し運営に関わっている。リビングのテーブル配置変更の提案で利用者の動きがスムーズになった事例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務に差支えないように各自の希望を取り入れ、負担にならないような勤務の調整をしている。 処遇改善交付金も活用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々の業務の中でケアの方法や考え方など指導に努めている。外部研修など出来る限り参加し、研修報告や会議にて職員が共有できる機会を設けている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	湖北の部会に属し、施設見学や研修等へ参加し意見や情報の交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居される前には本人との面談を行い、困りごとや不安なことを聞きとりながらに具体的なケア方法や内容について説明している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	定期的に連絡を取り困っている事、不安に思うことをお聞きしながら、ケアの方法や内容について説明している。一緒になって考えていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人にとって必要なこと、大切なことを一緒に探して安心して頂けるように努めている。家族様と相談のうえ穏やかに過ごされるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様の高齢化・レベル低下により不安や苦しみ等も感じられ、その思いに添えるように一緒に参加できる日課を作るように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のご本人様のご様子や、施設内での日々の健康記録をお知らせする手紙等で近況を報告している。また来所されることが多く、その都度お話しさせて頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ボランティアによる慰問や行事に家族を誘っている。ドライブや外出などいつでも家族様と出かけられるように配慮している。また、知人等が気軽に面会できるようにしている。	家族同行のドライブや、元職員の美容師のヘアカットを楽しみにしている利用者もいる。家族、知人の面会は頻繁で、家庭の料理を持ち込み食事を共にする家族もあり馴染みの関係の継続に配慮している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の相性や性格などを把握し、お互いに会話や助け合いができるように食事の席やフロアでの席等配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にお亡くなりになられたり、遠方の施設に入所された為お会いする機会も余りないが何かご相談があれば支援していく。思い出を語り合える様な関係が築けるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご利用者様の表情や動作、行動からご本人の思いを感じ考えられるように努めている。ご家族様からもこれまでのご本人の様子などお聞きしている。	職員は気付き日誌や家族との会話から利用者の意向を把握、共有するよう努めている。利用者の短い言葉やわずかな声のトーンの違いも捉え思いを汲み取って本人の思いを把握し、注意深く対応している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人との日ごろの会話や面会時のご家族様とお話しの中から把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や体調管理等にて状態の把握に努めている。情報を職員皆で共有し、毎日の暮らしの中で取り組みをしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の生活の中からお本人や家族様の思いや意向、介護・看護職員の意見を合わせモニタリングとしている。3か月ごとに見直し、作成している。	3か月毎に関係者とモニタリングを行い介護計画を作成している。変化のあった時はその都度見直し、共に介護計画は都度家族に説明し承認と確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	小さな気づきや状態の変化を気付きシートに記録し、情報を共有、日々のケアの中で常に見直し実践につなげていくようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々のご本人やご家族様の要望等に柔軟な対応を行なっている。空室を利用したショートステイの受け入れを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	当施設や近隣の事業所に定期的に訪問されるボランティアの方々と一緒に参加し楽しんでいる。美容ボランティアの方にも来て頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医を主治医とし往診時には情報をお伝えし、常に相談している。投薬についても常に相談し良好な状態を維持できるように努めている。必要な場合には専門医療機関への受診も行っている。	全ての利用者は、家族の同意を得て協力医を主治医としている。協力医による月2回の往診と、看護師により利用者の健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のバイタル測定時の異常値や身体の異変時は速やかに看護師に連絡をし対応している。体調不良時は看護師に相談し、必要時は受診をしている。基本的に日中は必ず看護師がいる。夜間対応の仕組みも作ってある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報提供は相互に行なっている。入院中はこちらからも様子をお伺いしたり、相談があれば対応している。受診の際には言葉を交わす努力をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族の要望をお聞きし、ご本人の状態に合わせ、家族、主治医と何度も話し合い、相談しながらご本人様や家族が安心して家に帰れるように支援した。今後も終末期のあり方については本人様、家族様と常に話し合い主治医と相談しながら支援していきたい。	重度化した場合の看取りは契約書で家族・事業所相互で検討しますと謳われているだけで方針としては具体性に乏しい。今年度終末期を迎えた利用者を介護した事例から、事業所としての具体的な取り組みの方針の作成を検討中である。	事業所として重度化や看取りに関する具体的な方針を文書化し、早い時期に本人、家族に説明し合意してほしい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル確認を定期的に行い、すべての職員が的確に対応できるように身に付けている。夜間の急変時の看護師への連絡方法も都度確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地震想定で避難誘導、通報、初期消火訓練を実施している。自治会の災害訓練にも参加している。事業所の訓練に地域住民の参加を求めていく。	年に2回内1回は夜間想定で消防署立会いの下、避難訓練を実施しているが地域住民の参加は得られていない。水や食品などを非常時に対応できるよう備蓄している。	避難訓練に、地域住民の参加が得られる協力体制の確立を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々の業務の中、何気ない声掛けにも利用者を傷つけていないかを考え対応している。気が付いたときはお互いに注意し合っている。高齢者を敬う気持ちを常に持っていることを意識している。	利用者個々の人格を尊重し、トイレ誘導の声掛けなどには小声で対応したり、人目に付かない所へ誘導したりして人格を損ねないような取り組みをしている。個人情報や鍵のかかる場所に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや欲求を言葉に出来る入居者は少ない。一方的にならないようにゆっくりと待つ姿勢を持ち、言葉かけの中で幾つかの選択肢から決定して頂いたり、その時の表情や言葉の抑揚で見極めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意思表示の出来ない入居者の対応は業務優先、職員優先になりがちだが、職員の決めつけではなくご本人の思いに沿った支援となるように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人の思いが伝わることは難しいが、表情などから見極めている。洗濯、直しなど適宜職員が補い満足して頂けるように支援している。ボランティアによるカットにも定期的に来て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	重度化している為、また個々の食事形態が異なる為一緒に準備、片付けをすることは難しい。食べたいものをお聞きしたり、おやつづくり等は一緒に行くこともある。	6名が食事介助を必要とし、刻みやミキサーなどで提供している状態で職員の相伴は無い。介護度が高くなっている中でも行事食を取り入れて少しでも食事を楽しむことができるよう努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿食の方、嚥下状態にあった食事形態、水分量の確保のため味の違う飲み物を用意したり等、工夫している。栄養価の高いもの、無い物なども準備し提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の声掛け、誘導にて口すすぎや義歯洗浄等行なっている。ご自分では作業・動作が困難な方が多く職員が介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	重度化している為、定期的に誘導している。個々の排尿・排便の記録にて排泄パターンの把握に努めている。	自立歩行可能な利用者は少なく、全員がリハビリパンツとパッド、紙おむつとパッドを使用している。利用者毎に排泄パターンを把握して、自室のポータブルトイレで排泄出来るように誘導し自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分をしっかり摂ること、牛乳やヨーグルト、果物なども用意している。排便チェック表にて把握し、看護師と相談し医師から処方されている便薬でコントロールも行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的には週2、3回の入浴である。ご本人の皮膚状態、体力、体調や、失禁等により随時入浴して頂くなど細かく対応している。	殆どどの利用者がリフト浴で入浴している。平均で週に2～3回、午前、午後を問わずに入浴している。湯船に入ると自然に自ら肩にかけ湯をして入浴を楽しむ利用者も居る。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のご様子や状況に応じて休息の時間を設けている。お部屋の温度・湿度などに注意し、寝具などでも気持ち良く休んで頂けるように調整している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の管理のもと確実な服薬に努めている。ご本人の状態変化に気を付け、都度相談している。処方箋をケースファイルに綴じ職員が把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化している中、何がその方にとって張り合いになるのか、どうすれば楽しんで頂けるのかを発見し日常的に実行し支援していくように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	テラスでの日光浴、敷地内での散歩、野菜の収穫へと外に出る機会を作っている。他事業所での催しごとにも参加している。またドライブで出かける機会も作っている。家族様と出かけられることもあった。	敷地内での散歩やテラスでの日光浴で五感刺激につながるように支援している。数回に分けて車イスでのドライブや、隣接事業所と相乗りの花見、家族に呼び掛けて同伴の買物等重度化した利用者のために工夫を凝らして外出を支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	重度化している為、購入希望をされるご利用者も少ない。おやつ等の買い物には職員の同行で出かけ、欲しいもの、好きなものを選んで頂くようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	重度化しご本人の希望も少なくなっているが、希望時には事業所の電話をご自由に使用していただいている。手紙の取次ぎも行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花や観葉植物を置き自然を感じられるようにしている。手作りのカレンダーや写真等も飾り利用者様の近況を見て頂いている。またオープンキッチンからは調理からの臭いを感じ生活感を出している。冬場は床暖房や天井扇、加湿器等で室温維持に努めている。	リビングは吹き抜けで明るく開放感が感じられる。手作りカレンダーや季節の花を飾ったり、職員が自宅で採れた季節の果物持ち込んだ果物など、いながらにして自然を感じられるよう工夫している。トイレや浴室は清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの間、食事の間と二つに分けている。ご利用者様の状況に合わせ、落ち着いて過ごせる場所を提供できるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の思い出の品物、家族との写真などをおいている。手紙や季節を感じられるもの、生活を感じるようにカレンダーも飾っている。部屋づくり等は主に家族様にお任せしている。	居室は床は和風の畳仕様で、ベッド寝具は事業所が準備したものを使用している。家族の写真を壁面いっぱい飾ったり、馴染みの置物を持ち込んだりして居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	重度化し、出来ることが少なくなっているが、関わり方の工夫で自立のお手伝いをし、安心、安全な生活を送って頂くように努めている。		

2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	33	事業所としての重度化や看取りに関する具体的な方針が文書化できていない。早い時期に家族様に説明し、同意が得られていない。	<ul style="list-style-type: none"> ご利用者様家族に看取りについての説明し合意を得る。 重度化や看取りについて具体的な方針を文書化していく。 職員一人ひとりが看取りについて理解しスキルアップを図る 	<ul style="list-style-type: none"> 重度化や看取りについて文書化したものをもとにご家族様に説明し、同意を得る。定期的に話し合いの場を持ち意向が変わっていないかの確認をしていく。 事業所の看取りについての方向を職員は理解・共有しお互いにスキルアップにつなげていく。 主治医とご家族とのコミュニケーションがスムーズにとれるように支援し信頼できる関係作りに努める。 	12ヶ月
2	35	年2回の災害訓練に地域住民の協力体制が確立できていない。	<ul style="list-style-type: none"> 年2回の災害訓練を実施する。 地域の行事には積極的に参加し、日頃からの関係作りを心がけていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 事業計画に年2回の災害訓練を計画し実施する。 地域の方との関係を深めるように、日頃の行事ごとなどにも参加を求めていく。 	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。